

としょかんNEWS 第99号



2015年6月6日
湘北短期大学図書館

学生選書ツアー参加者募集

学生選書ツアー【第22弾】を下記の要領で実施いたします。“学生選書ツアー”とは、図書館の利用者である学生自らが図書館にあったらいいと思う本、友達にオススメしたい本を、実際に書店の店頭で手にとって選書するという企画です。また、参加者の皆さんには、店頭で選書をするだけでなく、選んだ本を紹介するポップの作成など展示コーナーをトータルにプロデュースしていただきます。

ご参加いただいた方には、**湘北ポイント 100pt** とおしゃれグッズをプレゼント！お友達をお誘い合わせの上、是非ご参加ください。

- 日程: 8月4日(火)
- 時間: 10:00~12:00
- 場所: 有隣堂 厚木店



● 申込方法

選書ツアーに参加を希望される方は、①学生番号 ②氏名 ③電話番号 を明記の上、E-mail で図書館 toshokan@shohoku.ac.jp まで、お申込みください。申込期限は、**7月27日(月)**までとなります。詳細については、追って E-mail にてご連絡いたします。

さぼーち倶楽部、活動報告

● 新メンバーの歓迎会で、第9回ビブリアバトル開催！

さぼーち倶楽部が5月18日に新メンバーの歓迎会を行い、その中で第9回 ビブリアバトルを開催しました。さぼ部8名と図書館職員3名が参加し、総勢11名がそれぞれ持ち寄った本を紹介。今回は自己紹介を兼ねたビブリアバトルで、参加者の個性あふれる本が選ばれました。今年で5代目となる新メンバーのみなさん、よろしくおねがいいたします！

第9回 ビブリアバトル「チャンプ本」発表！

参加者全員で投票した結果、下記のとおりチャンプ本が決まりました。

★乙一 『箱庭図書館』—Tさん(P1)



春から夏へとうつろいゆく季節となってきました。だんだん気温も高くなり、冷たいジュース、アイスクリーム及びアイスコーヒーがよりいっそう食べたくなるこの頃です。

一方、冷たいジュース、アイスクリーム及びアイスコーヒーを製造している企業は、消費者のニーズに応えるために既存の商品の販売を拡大させたり、新商品の開発を展開させています。特に新商品の開発は他社との商品の差別化を図る重要な戦略となります。

いったい企業はどのように商品企画をしたり、新商品を開発したりするのでしょうか。商品企画に興味はあるが、よくわからない。商品企画を勉強したが、もう一度1から学び直したい方にお薦めする本が、西川英彦・廣田章光(2012)『1からの商品企画』碩学舎です。この本の特徴は、ケースを通して商品企画を学べること、商品企画プロセスに関連づけてマーケティングを学べるこ

とや実践力が身につくことです。

一方、商品の差別化競争からさらに高度な事業の仕組みの差別化競争を捉える本を紹介しましょう。加護野忠男(1999)『競争優位のシステム—事業戦略の静かなる革命—』PHP新書です。例えば、自動車を作る会社を考えてみましょう。自動車を作るためには、自動車を作るための部品を購買し、自動車を作り、自動車を販売する。さらに、販売した自動車のアフターサービスを行います。つまり、この本は、会社を経営するための部品や原材料の調達・生産・販売と流通・アフターサービス等の「事業の仕組み」、「事業システムの競争」の内容及びそれを考察することの重要性をわかりやすく説明しています。PHP新書が出版している本で手に取りやすく、わかりやすく説明しています。

マーケティングを中心とするビジネスの本を一度ご覧頂くことはいかがでしょうか。

【連載】館長閑話(20) 産業革命の光と影

館長 野口 周一

本年5月4日、日本が世界文化遺産に推薦していた「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」について、世界遺産への登録の可否を調査する諮問機関である国際記念物遺跡会議(イコモス)は、「登録が適当」とユネスコに勧告した。これは「軍艦島」、八幡製鉄所、三池炭鉱等、8 県にわたる 23 資産で構成される。イコモスの勧告のポイントを、その意義に絞ると、「一連の産業遺産群は西洋から非西洋国家に初めて産業化の波及が成功したことを示す」となる。これは光の部分であり、影は「韓国は登録に反対」という点である。

私たちは、産業革命について中学社会で学ぶ。『歴史 未来をみつめて』(教育出版)には、「産業革命の光と影」の節があり、「18 世紀後半から、イギリスでは、大量生産をおこなうための技術の改良や機械の発明が次々と生まれました。さらに、石炭を燃料とする蒸気機関が新しい動力として利用されたので、工業生産力は大きく向上しました」と説明が始まる。

私は「産業革命が生まれた場所」とされているアイアンブリッジ(イングランド)を訪ねたことが

ある。世界で初めて造られた鉄の橋であり、観光化されている。いわば光の部分である。

教科書の欄外には、「せいの工場で働く子どもたちの 1 日」として長時間就業を示すグラフ、「炭鉱で働く子どもたち」のイラスト、そして「ロンドンのスラム」には「産業革命によって地方から都市に働きに出てくる人々がふえ、人口集中によって、スラムとよばれる住宅街がふえていきました。ここでは、汚れた川から飲料水を取るなど、環境が悪く、伝染病が流行しました」とある。

土井正興他著『新講世界史』(三省堂、1976年)は、「産業革命は婦人・子供・アイルランド人といった安い労働力を活用した。ピット首相が『国富の増進に貢献する子供たち』と演説」、「アイルランド人はどの都市でも労働者の 2 割以上を占めて、やっとならぬが買えるだけの低賃金で働いた」、「16 時間から 19 時間に及ぶ長時間労働は、婦人・子供をはじめ労働者の身体をむしばんだ。過労の結果、身体を痛め奇形になる労働者が多かった。そればかりではない。労働者の住む居住地域は環境がきわめて悪かった」とあり、エンゲルスが「それなのに社会は、この状態を改善するためになに一つおこなっていない。…こうした社会のやり方は、ただの傷害致死ではなく“殺人”である」と述べていることにも言及している。—私たちは、光と影の双方を注視しなければならない。

